美容技術理論　　シラバス　（専門課程）令和 7年 4 月 1 日作成　　作成者 伊藤 裕美

1 教科・科目名	美容技術理論		
2 教員名	伊藤裕美		
3 時間数・単位	1年次　90時間	2年次　60時間（2年間　150 時間　単位）	
4 科目の目標	①美容技術についての知識を衛生的、能率的に実践する態度と習慣を養い、工夫と創造の能力とを身につけさせる		
	②美容器具の正しい取り扱いの方法と美容の基礎的技術とを作業の実際に即して指導し習熟させる		
	③優れた美容技術は経験によってだけ得られる者ではなく科学的・合理的な方法によって把握されなければならない事を強調する		
5 使用教材	教科書	(社)日本理容美容教育センター　①美容技術理論Ⅰ　②美容技術理論Ⅱ	
	問題集	①美容師国家試験の過去問題集　②ワークブック	
	その他	美容機器・器具・用具・プリント・技術動画・パワーポイント・ウイネット	
6 評価の方法	期末テストの評価	年2回　合計200点	
	授業中での評価	プリント提出(適宜)・小テスト(適宜)・授業態度・ノート提出	
7 評価の観点	観点	趣旨	
	知識・理解	美容技術の必要な用語・名称・目的・使用上の注意等を学び、基礎的技術論を実際に即して学ばせる	
	関心・意欲・態度	実習中に積極的に取り入れ反映されているか	
	国家試験対策	美容師国家試験の筆記試験対策として問題の解き方を理解している	
8 評価・評定の基準	達成度	評価	評定
	特に高い程度に達成している者	90～100点	5
	高い程度に達成している者	80～89点	4
	おおむね達成している者	60～79点	3
	達成が不十分な者	31～59点	2
	達成が著しく不十分な者	0～30点	1
9 学習の方法	教科書中心の授業を重要とし基本的理解を深める		
	教科書の内容をパワーポイントにより分かりやすく解説する		
	映像等を用い、教科書の内容の基本スタイルと、現在のヘアスタイルの変化を関連させて解説する		
	実習と関連性をもたせる事により理解と学ぶ意欲を向上させる		
	ワークブック・問題集など補助教材を用いて美容師国家試験に向けて実践的な力をつける		

10 指導内容

科目名	単元	指導内容	
美容技術理論	器具の扱い	(1)美容機器・器具の種類、使用目的、形態と機能、選定法、基本的操作、使用上の注意などを学ばせ理解させる。	
		(2)美容機器、器具の手入れ法や消毒法を具体的に理解させ、正確な実施方法と注意事項を身につけさせる。	
		(3)美容に用いられるその他の電気器具類、備品類、容器類の種類、使用目的、形態と機能、選定法、基本的操作、使用上の注意などを学ばせ理解させる。	
	基礎技術	(1)美容技術の意義を学ばせ、技術を行う場合の心得を知らせる。	
		(2)美容技術に必要な人体各部の名称を知らせる。	
		(3)美容技術を行う場合の技術者の位置と姿勢、身体の機能その他美容技術を行う場合に考慮すべき基礎知識を知らせる。	
	頭部技術	(1)基本的な頭部技術の目的、種類、特徴、技術上の注意などについて学ばせる。	
		・スキャルプトリートメント	物理的・化学的な作用を頭部に与えて頭部の皮膚、毛髪の健康状態を保ち発育を促す技術
		・ヘアトリートメント	傷んだ毛髪を人工的に補強しそれ以上傷まないように保護する事を目的とする技術
		・シャンプーリンス技術	すべての美容技術の基礎であり血行促進を初めとする生理的な働きを助け毛髪の健康な発育を促す技術
		・カッティング技術	毛髪の長さ調整と疎密さを整えることを目的とし、カッティングの理論を理解し技術の基本を確実に身につける
		・パーマネント技術	毛髪に対して道具や薬剤を用いて毛髪の構造や形状をウェーブ状に変化させヘアスタイルをつくる為の手段の一つ
		・ウェービング技術	ウェーブを作り出す技術、ヘアスタイルをつくるための手段の一つ
		・セッティング技術	基礎的なオリジナルセットと仕上げのリセットと二つの段階を経てヘアスタイルを作る技術
	特殊技術	(1)カラーリング・美顔術・化粧・マニキュア・ペディキュア・等の美容の特殊技術の目的、種類、特徴、技術上の注意などについて学ばせる。	
		・カラーリング	ファッションの領域を超え生活習慣の一部として定着した技術
		・エステ	人の容姿を美しく整える事を目的とした毛髪美粧以外の全身に係わる美容法
		・メイク	どのようなニーズにも適応するための多面的な知識を持ち、単に顔の表面に色をのせるのではなく目的にあった顔づくりをする為の手段
		・マニキュア(ペディキュア)	手足の爪の手入れをいい、広い意味では手指(足)の爪を衛生的に美しくする技術
	和装技術	(1)日本髪の基礎知識、技術の実際について学ばせる	
		(2)かつらの種類、あわせ方、かぶせ方について学ばせる	
		(3)和装に関する一般知識、着付け技術について学ばせる	

美容技術理論　　シラバス　（専門課程）令和 7年 4 月 1 日作成　　作成者 伊藤 裕美

1 教科・科目名	美容技術理論		
2 教員名	伊藤裕美　渡邊映美		
3 時間数・単位	1年次　90時間	2年次　60時間（2年間　150 時間　単位）	
4 科目の目標	①美容技術についての知識を衛生的、能率的に実践する態度と習慣を養い、工夫と創造の能力とを身につけさせる		
	②美容器具の正しい取り扱いの方法と美容の基礎的技術とを作業の実際に即して指導し習熟させる		
	③優れた美容技術は経験によってだけ得られる者ではなく科学的・合理的な方法によって把握されなければならない事を強調する		
5 使用教材	教科書	(社)日本理容美容教育センター　①美容技術理論Ⅰ　②美容技術理論Ⅱ	
	問題集	①美容師国家試験の過去問題集　②ワークブック	
	その他	美容機器・器具・用具・プリント・技術動画・パワーポイント・ウイネット	
6 評価の方法	期末テストの評価	年2回　合計200点	
	授業中での評価	プリント提出(適宜)・小テスト(適宜)・授業態度・ノート提出	
7 評価の観点	観点	趣旨	
	知識・理解	美容技術の必要な用語・名称・目的・使用上の注意等を学び、基礎的技術論を実際に即して学ばせる	
	関心・意欲・態度	実習中に積極的に取り入れ反映されているか	
	国家試験対策	美容師国家試験の筆記試験対策として問題の解き方を理解している	
8 評価・評定の基準	達成度	評価	評定
	特に高い程度に達成している者	90～100点	5
	高い程度に達成している者	80～89点	4
	おおむね達成している者	60～79点	3
	達成が不十分な者	31～59点	2
	達成が著しく不十分な者	0～30点	1
9 学習の方法	教科書中心の授業を重要とし基本的理解を深める		
	教科書の内容をパワーポイントにより分かりやすく解説する		
	映像等を用い、教科書の内容の基本スタイルと、現在のヘアスタイルの変化を関連させて解説する		
	実習と関連性をもたせる事により理解と学ぶ意欲を向上させる		
	ワークブック・問題集など補助教材を用いて美容師国家試験に向けて実践的な力をつける		

10 指導内容

科目名	単元	指導内容	
美容技術理論	器具の扱い	(1)美容機器・器具の種類、使用目的、形態と機能、選定法、基本的操作、使用上の注意などを学ばせ理解させる。	
		(2)美容機器、器具の手入れ法や消毒法を具体的に理解させ、正確な実施方法と注意事項を身につけさせる。	
		(3)美容に用いられるその他の電気器具類、備品類、容器類の種類、使用目的、形態と機能、選定法、基本的操作、使用上の注意などを学ばせ理解させる。	
	基礎技術	(1)美容技術の意義を学ばせ、技術を行う場合の心得を知らせる。	
		(2)美容技術に必要な人体各部の名称を知らせる。	
		(3)美容技術を行う場合の技術者の位置と姿勢、身体の機能その他美容技術を行う場合に考慮すべき基礎知識を知らせる。	
	頭部技術	(1)基本的な頭部技術の目的、種類、特徴、技術上の注意などについて学ばせる。	
		・スキャルプトリートメント	物理的・化学的な作用を頭部に与えて頭部の皮膚、毛髪の健康状態を保ち発育を促す技術
		・ヘアトリートメント	傷んだ毛髪を人工的に補強しそれ以上傷まないように保護する事を目的とする技術
		・シャンプーリンス技術	すべての美容技術の基礎であり血行促進を初めとする生理的な働きを助け毛髪の健康な発育を促す技術
		・カッティング技術	毛髪の長さ調整と疎密さを整えることを目的とし、カッティングの理論を理解し技術の基本を確実に身につける
		・パーマネント技術	毛髪に対して道具や薬剤を用いて毛髪の構造や形状をウェーブ状に変化させヘアスタイルをつくる為の手段の一つ
		・ウェービング技術	ウェーブを作り出す技術、ヘアスタイルをつくるための手段の一つ
		・セッティング技術	基礎的なオリジナルセットと仕上げのリセットと二つの段階を経てヘアスタイルを作る技術
	特殊技術	(1)カラーリング・美顔術・化粧・マニキュア・ペディキュア・等の美容の特殊技術の目的、種類、特徴、技術上の注意などについて学ばせる。	
		・カラーリング	ファッションの領域を超え生活習慣の一部として定着した技術
		・エステ	人の容姿を美しく整える事を目的とした毛髪美粧以外の全身に係わる美容法
		・メイク	どのようなニーズにも適応するための多面的な知識を持ち、単に顔の表面に色をのせるのではなく目的にあった顔づくりをする為の手段
		・マニキュア(ペディキュア)	手足の爪の手入れをいい、広い意味では手指(足)の爪を衛生的に美しくする技術
	和装技術	(1)日本髪の基礎知識、技術の実際について学ばせる	
		(2)かつらの種類、あわせ方、かぶせ方について学ばせる	
		(3)和装に関する一般知識、着付け技術について学ばせる	

美容実習/シラバス　　専門課程　　作成者:渡邊 映美

1	教科・科目名	美容実習	本科目は美容理論とあいまって、美容師として必要な技術を身につけさせるための基礎となる科目
2	時間数	1年次	420h以上　単位　2年次　480h以上　単位　2年間で900h以上　30単位
3	科目の目標	美容実習	①美容業務を安全かつ効果的に実施する技術を習得する為、基本的操作を確実に身につけさせると共にこれらの基本的操作を適宜組み合わせて完成させる技術を習得させる
			②美容所における衛生管理の重要性を認識させ、器具の消毒などの適切な実施方法を身につけさせる。
			③個々の客の要望に応じた美容技術を確実に提供できるよう総合的な技術の基礎を身につけさせる。
4	使用教材	教科書	(社)日本理容美容教育センター　①美容実習Ⅰ　②美容実習Ⅱ
		テキスト	(財)理容師美容師試験研修センター　改正美容師実技試験課題　衛生と技術の解説
		その他	美容機器・器具・用具・技術動画・パワーポイント
5	評価の方法	期末テストの評価	年2回　/合計200点
		授業中での評価	①授業態度　②学生ごとの実習記録とその評価　③技術の研鑽に取り組む姿勢
6	評価の観点	観　点	趣　旨
		知識・理解	美容技術理論の学習状況に配意しつつ、理論と実習との連携を図って、美容師としての専門技術を効果的に習得させ基本的な技術を確実に身につけさせる。
		関心・意欲・態度	実習の効果を学生間で評価させ技術向上のための刺激を与え学習効果と学習意欲を高めるようにする。
		国家試験対策	美容師国家試験の実技試験対策として衛生を含め、各課題の構成・ポイントを理解し正確な作業手順と技術を理解してい

7	評価・評定の基準	達成度	評価	評定
		特に高い程度に達成している者	90～100点	5
		高い程度に達成している者	80～89点	4
		おおむね達成している者	60～79点	3
		達成が不十分な者	31～59点	2
		達成が著しく不十分な者	0～30点	1

8	学習の方法	(1)美容実習の教科書中心の授業を重要とし基本的理解を深める	
		(2)理論と関連性をもたせる事により技術に対する理解を深めさせ学ぶ意欲を向上させる	
		(3)改正美容師実技試験課題　衛生と技術の解説など補助教材(テキスト)を用いて美容師国家試験に向けて実践的な力をつける	
		(4)個別の実習記録簿を作成し管理することで学生個々の技術進度を把握しやすくし技術の向上を促す	
9	指導内容	単　元	指導内容
		器具の扱い実習	全ての美容技術に必要な器具類の名称・使用目的・形態の機能・基本操作法・使用上の注意を学ばせる
			(1)美容器具の操作法、消毒法、手入れ方法を確実に身につけさせる
			(2)用途に適した美容器具の選択方法について理解させ、実践する能力を身につけさせる
		基礎技術実習	美容技術の施術に必要な心得・人体名称・技術者の作業姿勢・その他技術を行うに考慮すべき基礎知識
			(1)美容技術を行う場合の位置、姿勢など美容技術を行う場合に必要な基本動作を身につけさせる
			(2)施設の清掃・消毒など美容所の衛生管理のために必要な措置を確実に身につけさせる
			(3)特に器具の消毒についてはその重要性を十分に認識させるとともに、適正な方法で実施することを習慣づけさせる事が必要である
		頭部技術実習	基本的な頭部技術の目的・種類・特徴・技術上の注意などについて学ばせる
			(1)基本的な頭部技術を身につけさせる
			・スキャルプトリート メント　物理的・化学的な作用を頭部に与えて頭部の皮膚、毛髪の健康状態を保ち発育を促す技術
			・ヘアトリートメント　傷んだ毛髪を人工的に補強しそれ以上傷まないように保護する事を目的とする技術
			・シャンプーリンス技術　すべての美容技術の基礎であり血行促進を初めとする生理的な働きを助け毛髪の健康な発育を促す技術
			・カッティング技術　毛髪の長さ調整と疎密さを整えることを目的とし、カッティングの理論を理解し技術の基本を確実に身につける
			・パーマネント技術　毛髪に対して道具や薬剤を用いて毛髪の構造や形状をウェーブ状に変化させヘアスタイルをつくる為の手段の一つ
			・ウェービング技術　ウェーブを作り出す技術、ヘアスタイルをつくるための手段の一つ
			・セッティング技術　基礎的なオリジナルセットと仕上げのリセットと二つの段階を経てヘアスタイルを作る技術
			(2)この際使用する器具は毎回必ず消毒することを身につけさせる
		特殊技術実習	美容特殊技術の目的・種類・特徴・技術上の注意点などについて学ばせる
			(1)カラーリング・美顔術・化粧・マニキュア・ペディキュア・等の美容の特殊技術を身につけさせる
			・カラーリング　ファッションの領域を超え生活習慣の一部として定着した技術
			・エステ　人の容姿を美しく整える事を目的とした毛髪美粧以外の全身に係わる美容法
			・メイク　どのようなニーズにも適応するための多面的な知識を持ち、単に顔の表面に色をのせるのではなく目的にあった顔づくりをする為の手段
			・マニキュア(ペディキュア)　手足の爪の手入れをいい、広い意味では手指(足)の爪を衛生的に美しくする技術
		和装技術実習	日本髪の基礎知識・かつら・和装に関する基礎知識・着付け技術について学ばせる
			(1)日本髪の結髪技術、かつらのあわせ方、かぶせ方、着付け技術を身につけさせる。
		総合実習	(1)頭部、特殊技術を適当に組み合わせて調和のとれた美容技術を完成させるため、総合的な技術を身につけさせる。

美容実習/シラバス　　専門課程　2年生　　令和　7年　2　月　1　日作成　　作成者:桐山　礼子

1	教科・科目名	美容実習	本科目は美容理論とあいまって、美容師として必要な技術を身につけさせるための基礎となる科目
2	教員名	桐山　礼子	
3	時間数	前期　240時間　　後期　240時間　　合計　　480時間　　単位　　2年間で900h以上　30単位	
4	科目の目標	①美容業務を安全かつ効果的に実施する技術を習得する為、基本的操作を確実に身につけさせると共にこれらの基本的操作を適宜組み合わせて完成させる技術を習得させる	
		②美容所における衛生管理の重要性を認識させ、器具の消毒などの適切な実施方法を身につけさせる。	
		③個々の客の要望に応じた美容技術を確実に提供できるよう総合的な技術の基礎を身につけさせる。	
5	使用教材	教科書	(社)日本理容美容教育センター　　①美容実習Ⅰ　②美容実習Ⅱ
		テキスト	(財)理容師美容師試験研修センター　　改正美容師実技試験課題　衛生と技術の解説
		その他	美容機器・器具・用具・パワーポイント
6	評価の方法	期末テストの評価	年2回　/合計200点
		中間テスト	6月　100点
		授業中での評価	①授業態度　②学生ごとの実習記録とその評価
7	評価の観点	観　点	趣　旨
		知識・理解	美容技術理論の学習状況に配意しつつ、理論と実習との連携を図って、美容師としての専門技術を効果的に習得させ基本的な技術を確実に身につけさせる。
		関心・意欲・態度	実習の効果を生徒間で評価させ技術向上のための刺激を与え学習効果と学習意欲を高めるようにする。
		国家試験対策	美容師国家試験の実技試験対策として各課題の構成・ポイントを理解し正確な作業手順と技術を理解している

8	評価・評定の基準	達成度	評価	評定
		特に高い程度に達成している者	90～100点	5
		高い程度に達成している者	80～89点	4
		おおむね達成している者	60～79点	3
		達成が不十分な者	31～59点	2
		達成が著しく不十分な者	0～30点	1

9	学習の方法	(1)国家試験課題中心の授業を一番重要とし基本的理解を深める	
		(2)理論と関連性をもたせる事により技術に対する理解を深めさせ学ぶ意欲を向上させる	
		(3)改正美容師実技試験課題　衛生と技術の解説など補助教材(テキスト)を用いて美容師国家試験に向けて実践的な力をつける	
		(4)サロンワークで使用する基本的技術、実践的な技術を身につける	
		(5)個別の実習ノートを作成させ、管理することで学生個々の技術進度を把握しやすくし技術の向上を促す	
10	指導内容	単　元	指導内容
		器具の扱い実習	全ての美容技術に必要な器具類の名称・使用目的・形態の機能・基本操作法・使用上の注意を学ばせる
			(1)美容器具の操作法、消毒法、手入れ方法を確実に身につけさせる
			(2)用途に適した美容器具の選択方法について理解させ、実践する能力を身につけさせる
		基礎技術実習	美容技術の施術に必要な心得・人体名称・技術者の作業姿勢・その他技術を行うに考慮すべき基礎知識
			(1)美容技術を行う場合の位置、姿勢など美容技術を行う場合に必要な基本動作を身につけさせる
			(2)施設の清掃・消毒など美容所の衛生管理のために必要な措置を確実に身につけさせる
			(3)特に器具の消毒についてはその重要性を十分に認識させるとともに、適正な方法で実施することを習慣づけさせる事が必要である
		頭部技術実習	基本的な頭部技術の目的・種類・特徴・技術上の注意などについて学ばせる
			(1)基本的な頭部技術を身につけさせる
			・スキャルプトリートメント　物理的・化学的な作用を頭部に与えて頭部の皮膚、毛髪の健康状態を保ち発育を促す技術
			・ヘアトリートメント　傷んだ毛髪を人工的に補強しそれ以上傷まないように保護する事を目的とする技術
			・シャンプーリンス技術　すべての美容技術の基礎であり血行促進を初めとする生理的な働きを助け毛髪の健康な発育を促す技術
			・カッティング技術　毛髪の長さ調整と疎密さを整えることを目的とし、カッティングの理論を理解し技術の基本を確実に身につける
			・パーマネント技術　毛髪に対して道具や薬剤を用いて毛髪の構造や形状をウェーブ状に変化させヘアスタイルをつくる為の手段の一つ
			・ウェービング技術　ウェーブを作り出す技術、ヘアスタイルをつくるための手段の一つ
			・セッティング技術　基礎的なオリジナルセットと仕上げのリセットと二つの段階を経てヘアスタイルを作る技術
			(2)この際使用する器具は毎回必ず消毒することを身につけさせる
		特殊技術実習	美容特殊技術の目的・種類・特徴・技術上の注意点などについて学ばせる
			(1)ヘアカラーリング・アップ・メイク等の美容の特殊技術を身につけさせる
			・ヘアカラーリング　ファッションの領域を超え生活習慣の一部として定着した技術
			・アップ　ヘアアレンジ、アップ
			・メイク　どのようなニーズにも適応するための多面的な知識を持ち、単に顔の表面に色をのせるだけでなく目的にあった顔づくりをする為の手段
		和装技術実習	日本髪の基礎知識・かつら・和装に関する基礎知識・着付け技術について学ばせる
			(1)日本髪の結髪技術、かつらのあわせ方、かぶせ方、着付け技術を身につけさせる。
		総合実習	(1)頭部、特殊技術の組み合わせて調和のとれた美容技術を完成させるため、総合的な技術を身につけさせる。

関係法規・制度　シラバス　（ 専門課程 ）　令和 7年 3月 27日作成　作成者 番匠 重雄

1．	教科・科目名	関係法規・制度
2．	教員名	番匠 重雄
3．	時間数・単位	1年次 0時間　2年次30時間　（2年間 30時間　1単位）
4．	科目の目標	①専門職としての美容師を目指す者に対して、美容師法による規制と行政による指導監督制度およびその他の美容の業の関連法規を理解させる。 ②社会における専門職としての美容師としての職業意識を高め、職業倫理を身につけること。
5．	使用教材	教科書　㈳日本理容美容教育センター 関係法規・制度 、 ㈳日本理容美容教育センター 美容師法関係法令集
		問題集　㈳日本理容美容教育センター ワークブック
		その他　ウィネット(webトレーニング)の活用 、 自作プリント
6．	評価の方法	期末テスト評価　年2回　合計200点
		平常学習の評価　授業態度 、ノート 、提出物

7．	評価の観点	観　点	趣　旨
		知識・理解	美容師法を中心に様々な法律についての基本的な用語や仕組みを理解している。
		国家試験対策	美容師国家試験の筆記試験対策として問題の解き方を理解している。
		関心・意欲・態度	様々な具体例に関心を持ち、自ら考え、意欲的に学ぶ姿勢を身につけている。

8．	評価・評定の基準	達成度	評価	評定
		特に高い程度に達成している者	90～100点	5
		高い程度に達成している者	80～89点	4
		おおむね達成している者	60～79点	3
		達成が不十分な者	31～59点	2
		達成が著しく不十分な者	0～30点	1

9．	学習の方法	①授業を一番大切にする。教科書、プリントを中心とした学習で基本的理解を深めること。
		②様々な具体例に興味関心を持ち、積極的に学ぶ姿勢を身につけること。
		③練習問題をたくさんこなし、美容師国家試験に向け、実践的な力をつけること。

10．　授業計画

科目名	回	単　元	指　導　内　容
関係法規・制度	1～2	1 法制度の概要	・ 社会を公正に機能させるために強制的な社会規範として法制度が必要とされていること、また、法体系の実際を理解させる。 ・ 公衆衛生の向上を目的とする衛生法規の概要を理解させ、美容師法が生活衛生法規として分類されることを理解させる。
	3～5	2 衛生行政の概要	・ 人の健康を保持・推進する衛生行政が非常に重要であることと同時に、理・美容に関する行政が現在どのように運用されているかを理解させる。 ・ 地域における理・美容の業を指導監督する保健所の行政を理解させる。
	6～13	3 美容師法	・ 美容師として美容サービスを提供する者は、美容師法をよく理解し、守り、「衛生的かつ安全に美容を行う責任がある」ことを理解させる。
	14～17	前期試験事前指導　前期の復習	前期試験の事前指導　前期学習の復習　夏休みの課題確認
	18～19	3 美容師法	美容師法等違反の美容師や開設者への罰則
	20～22	4 関連法規	美容師法以外の美容師及び美容の業に関わる法律についても理解を深めさせ、将来の美容師の職業に生かせるように指導する。
	23～24	参考資料、復習	美容師法の構成と歴史を理解させる。
	25～26	後期試験事前指導	後期の学習の定着を図る。
	27～30	関係法規・制度のまとめ	一年間の総復習 、国家試験受験への意欲を高める。

シラバス　（　専門課程　）　令和 7 年 4 月 1 日作成　作成者 森 裕志

1． 教科・科目名	衛生管理	
2． 教員名	森 裕志	
3． 時間数・単位	1年次 30 時間 2年次 0 時間 (1年間 30 時間 単位)	
4． 科目の目標	美容師は人の健康にかかわる職業であることから、衛生管理の知識、技術を身に付ける	
5． 使用教材	教科書	「衛生管理」 科書編纂委員会編集 2023年 (公社)日本理容美容教育センター、東京
	問題集	集中マスター 2023-2024年版 美容師国家試験合格対策＆模擬問題集 (公社)日本理容美容教育センター
6． 評価の方法	期末テスト	前期および後期のそれぞれ期末に行う(2回合計)
	平常学習評価	小テスト(適宜)を行い、授業態度と合わせて評価する
7． 評価の観点	観点	趣旨
	知識・理解	美容師に必要な公衆衛生、環境衛生、病原微生物、感染症の基礎を学ぶ
	国家試験対策	美容師国家試験(筆記)に向けての知識・技能の向上
	関心・意欲	授業への積極的な参加、授業の予習・復習の積極的な取り組み

8． 評価・評定の基準	達成度	評価	評定
	特に高い程度に達成している者	90～100点	5
	高い程度に達成している者	80～89点	4
	おおむね達成している者	60～79点	3
	達成が不十分な者	31～59点	2
	達成が著しく不十分な者	0～30点	1

9． 学習の方法	講義はスライドを用いて行い、内容に関するプリントを配布する 学習の進展状況について適宜小試験を行う

10． 指導内容

科目名	単元	指導内容
衛生管理 1年	公衆衛生の意義	公衆衛生の概要、歴史とWHO、公衆衛生の意義と重要性について学ぶ
	公衆衛生の課題	公衆衛生の目的、美容業と公衆衛生、保健所業務の内容について学ぶ
	保健1	人口静態調査・動態調査、出生と死亡、母子保健、人口変動について学ぶ
	保健2	生活習慣病の原因と予防、医療保険・後期高齢者保険・介護保険について学ぶ
	環境衛生1	環境衛生の目的と意義、空気環境について学ぶ
	環境衛生2	衣服、住居の衛生、上下水道と水の衛生、廃棄物について学ぶ
	人と感染症・病原微生物	病原微生物の種類とその特徴について学ぶ
	感染症の予防と対策1	感染に対する生体防御、免疫について学ぶ
	感染症の予防と対策2	常在細菌、感染予防の3原則について学ぶ
	おもな感染症	おもな感染症とその特徴、感染症に関する法律について学ぶ

衛生管理　シラバス　（ 専門課程 ）　令和 7年4月1 日作成　作成者 渡邊 靖信

1．	教科・科目名	衛生管理
2．	教員名	渡邊 靖信
3．	時間数・単位	2年次 60 時間　(2年間 90 時間　単位)
4．	科目の目標	美容師として衛生管理の知識を身に付けることにより、感染症対策、消毒技術をきちんと学ぶ
5．	使用教材	教科書　㈳日本理容美容教育センター
		問題集　㈳日本理容美容教育センター(ワークブック)
		その他　ウイネット
6．	評価の方法	期末テスト　年2回 合計200点
		平常学習評価　授業態度
7．	評価の観点	観点：趣旨
		知識・理解：美容師に必要な公衆衛生、感染症、消毒の基礎を学ぶ
		国家試験対策：美容師国家試験の筆記対策と問題の解き方を学ぶ
		関心・意欲：授業時間を有効に使っている

8． 評価・評定の基準

達成度	評価	評定
特に高い程度に達成している者	90～100点	5
高い程度に達成している者	80～89点	4
おおむね達成している者	60～79点	3
達成が不十分な者	31～59点	2
達成が著しく不十分な者	0～30点	1

9．	学習の方法	教科書と内容についてまとめたプリント、練習問題で知識の確認を行う
		美容師国家試験に向けて確実に知識の定着を図る

10． 授業計画

科目名	単位	単元	指導内容
衛生管理 2年	1～2	人類と感染症	感染症の歴史を説明し、人類がどのように関わってきたかを学ぶ
	3～4	感染症の種類と分類	感染症を法律的、侵入経路、病原体の種類など分類する知識を持つ
	5～7	病原微生物について	細菌・ウイルス・寄生虫・原虫を説明し、学ぶ
	8～10	感染と発病・病原性の変異	感染と発病の違いや病原性に変異するものがあるということを学ぶ
	11～13	免疫と予防接種	免疫獲得と法律で定められている予防接種の分類等について学ぶ
	14～17	感染症予防の三原則	感染症の発生・流行を防ぐ方法について説明し学ばせる
	18～25	感染症各論	代表的な感染症の病原体・感染経路・症状・予防対策などを学ぶ
	25～30	具体的な対策の例	感染症の疑いのある接客時の具体的な感染防止対策を学ぶ
	31～34	消毒と滅菌の定義	消毒と滅菌の違い、それぞれの詳細について学ぶ
	35～38	美容師と消毒法	美容師法の定めを学ぶ
	39～40	理学的消毒法	紫外線、煮沸などの理学的消毒法の詳細を学ぶ
	41～44	化学的消毒法	消毒薬を用いた消毒について具体的に学ぶ
	45～46	施術における消毒の実際	美容所での消毒法の具体的な使用例を学ぶ
	47～50	消毒薬希釈法	消毒薬を希釈する際の計算問題の解き方を学ぶ
	51～53	衛生管理の実施例	美容所における衛生管理要領を学ぶ
	54～60	公衆衛生・環境衛生	美容師国家試験に向けて公衆衛生・環境衛生の総復習

保 健　　シラバス　　（専門 課程）　　令和7 年4 月1 日作成　　作成者 関 加奈子

1．	教科・科目名	保健
2．	教員名	関 加奈子
3．	時間数・単位	1年次 30時間　2年次 60時間　（2年間 90時間 3単位）
4．	科目の目標	①人体の構造と機能や公衆衛生について基本的な知識を持ち、美容技術と保健との具体的関連性について学ぶ。 ②美容師国家試験問題対応基礎力を修得する。
5．	使用教材	教科書　（社）日本理容美容教育センター
		その他　（社）日本理容美容教育センター （ワークブック）
		美容師国家試験過去問題 教科書を網羅したプリント及びpowerpoint資料
6．	評価の方法	期末テスト評価　年2回 合計200点
		平常学習評価　授業の取り組み方

7．	評価の観点	観点 / 趣旨
		知識・理解 / 美容師に必要な解剖学、生理学等の基礎知識を習得している。
		国家試験対策 / 美容師国家試験の筆記試験の内容を理解し、問題の解き方を習得している。
		関心・意欲・態度 / 授業時間を有効に使っている。

8．	評価・評定の基準	達成度	評価	評定
		特に高い程度に達成している者	90～100点	5
		高い程度に達成している者	80～89点	4
		おおむね達成している者	60～79点	3
		達成が不十分な者	31～59点	2
		達成が著しく不十分な者	0～30点	1

9．	学習の方法	教科書と映像等を用いた講義形式で行う。
		講義の範囲について、教科書を必ず音読する。
		教科書の内容についてまとめたプリントで確認を行う。各章が終了後小テストを行う。

10． 授業計画

科目名	回	単元	指導内容
保健	1～3	頭部、顔部、頸部の体表解剖学	人体各部の名称、頭部・顔部・頸部の体表解剖学について学ぶ。
	4～7	骨格器系	骨の種類と構造や骨の連結等構造と、そのはたらきについて学ぶ。
	8～9	筋系	筋の種類と特徴及び、主な骨格筋とそのはたらきについて学ぶ。
	10～12	神経系	神経系の構造及び、そのはたらきについて学ぶ。
	13	感覚器系	視覚について学ぶ。
	14～15	前期テスト準備	1～12までの範囲について、復習する。
	16～17	感覚器系	聴覚、平衡感覚、味覚、臭覚、皮膚感覚のそれぞれについて学ぶ。
	18～19	血液・免疫系	血液免疫について学ぶ。
	20～23	循環器系	血液循環について学ぶ。
	24～25	呼吸器系	気道、肺の構造とガス交換、呼吸運動について学ぶ。
	26～28	消化器系	消化管の構造とはたらき、消化と物質代謝について学ぶ。
	29～30	後期テスト準備	16～27までの範囲について、復習する。
	31～34	皮膚の構造	皮膚の表面や断面、表皮・真皮・皮下組織の構造について学ぶ。
	35～39	皮膚付属器官の構造	毛、脂腺（皮脂腺）、汗腺、爪の構造及びそのはたらきについて学ぶ。
	40～41	皮膚の循環器系と神経系	皮膚の血管、リンパ管の構造とはたらき、及び皮膚の神経の構造とはたらきについて学ぶ。
	41～46	皮膚と皮膚付属器官の生理機能	対外保護、体温調節、知覚作用と皮膚反射、分泌排泄、呼吸、吸収、貯蔵、免疫・解毒・排除、再生等の各機能について学ぶ。
	47～56	皮膚と皮膚付属器官の保健	皮膚と全身・精神・栄養・し好品・体内病変等との関係、ホルモンとの関係、皮膚・毛・爪の手入れ等について学ぶ。
	57～60	前期テスト準備	31～56までの範囲について、復習する。
	61～78	皮膚と皮膚付属器官の疾患	皮膚疾患の原因と種類、各皮膚疾患の詳細について学ぶ。
	79～84	後期テスト準備	31～77までの範囲について、復習する。
	85～90	国家試験対策	過去の問題を網羅し、国家試験対策を行う。

香粧品化学 シラバス

（専門課程）　　令和7年4月1日作成　　作成者 野々村 誠一

1．	教科・科目名	香粧品化学	
2．	時間数・単位	1年次 30時間、 2年次 30時間　（2年間 60時間 2単位）	
3．	科目の目標	香粧品化学	美容分野に欠かせない香粧品化学の知識を身に付ける
		その他	美容師国家試験に向けて実践的な力を身に付ける
4．	使用教材	教科書	(社)日本理容美容教育センター ①香粧品科学 ②ワークブック
		問題集	JHEC(日本美容教育委員会)編 合格対策＆模擬問題集
		その他	美容師国家試験過去問題
5．	評価の方法	期末テストの評価	年2回 合計200点
		授業の評価	小(章)テスト 年5回 合計500点
		平常学習の評価	小(課題)テスト 年5回 合計500点
6．	評価の観点	観点	趣旨
		知識・理解	香粧品の性状や使用方法・安全性等について学ぶ
		国家試験対策	美容師国家試験の過去問を中心に解き方を学ぶ
		関心・意欲・態度	全体・各章・各課題ごとに関連付けて学ぶ

7．	評価・評定の基準	達成度	評価	評定
		100点法による5段階評価	90～100点	5
			80～89点	4
			60～79点	3
			40～59点	2
			0点～39点	1

8．	学習の方法	過去問を重点とした学習で理解を深める
		シラバスの流れを頭に描き、到達目標を確認して効果を高める
		シラバスの中心に不足しているところ需要なところを見い出し参考にする

9． 授業計画

科目名	回	単元	指導内容
香粧品化学 1年生	1～4	香粧品概論	1、2章 品質特性と機能・安全性・安定性等
	5～12	香粧品用原料	3章 配合成分の役割の適切な使用方法
	16～17	基礎香粧品	全般について、使用目的・用法・効果効能
	18～19	メイクアップ用香粧品	使用される香粧品の使用目的・使用部位と材料
	20～24	頭皮・毛髪用香粧品	パーマネント・カラーリング・スタイリング・頭皮のケア等
	25～26	芳香製品と特殊香粧品	芳香製品・サンケア製品等の作用と配合成分の影響
	(関連)	基礎科学	香粧品化学に関係している化学的な基礎知識
	13	まとめ	概論と原料
	14～15	テスト	前期テスト・事後
	27～28	まとめ	4～5章 基礎・メイクアップ・頭皮・毛髪・芳香・特殊
	29～30	テスト	後期テスト・事後

香粧品化学 シラバス　　(専門課程)　　令和7年4月1日作成　　作成者 野々村 誠一

1．	教科・科目名	香粧品化学	
2．	時間数・単位	1年次 30時間、2年次 30時間　(2年間 60時間 2単位)	
3．	科目の目標	香粧品化学	美容分野に欠かせない香粧品化学の知識を身に付ける
		その他	美容師国家試験に向けて実践的な力を身に付ける
4．	使用教材	教科書	(社)日本理容美容教育センター ①香粧品科学 ②ワークブック
		問題集	JHEC(日本美容教育委員会)編 合格対策＆模擬問題集
		その他	美容師国家試験過去問題
5．	評価の方法	期末テストの評価	年2回 合計200点
		授業の評価	小(章)テスト 年5回 合計500点
		平常学習の評価	小(課題)テスト 年5回 合計500点
6．	評価の観点	観点	趣旨
		知識・理解	香粧品の性状や使用方法・安全性等について学ぶ
		国家試験対策	美容師国家試験の過去問を中心に解き方を学ぶ
		関心・意欲・態度	全体・各章・各課題ごとに関連付けて学ぶ

7．	評価・評定の基準	達成度	評価	評定
		100点法による5段階評価	90～100点	5
			80～89点	4
			60～79点	3
			40～59点	2
			0点～39点	1

8．	学習の方法	過去問を重点とした学習で理解を深める
		シラバスの流れを頭に描き、到達目標を確認して効果を高める
		シラバスの中心に不足しているところ需要なところを見い出し参考にする

9． 授業計画

科目名	回	単元	指導内容
香粧品化学 2年生	1～2	香粧品概論	1章 品質特性と機能・安全性・安定性等
	3～7	香粧品用原料	2章 配合成分の役割の適切な使用方法
	8	基礎香粧品	全般について、使用目的・用法・効果効能
	9	メイクアップ用香粧品	使用される香粧品の使用目的・使用部位と材料
	10～12	頭皮・毛髪用香粧品	パーマネント・カラーリング・スタイリング・頭皮のケア等
	13	芳香製品と特殊香粧品	芳香製品・サンケア製品等の作用と配合成分の影響
	(関連)	基礎科学	香粧品化学に関係している化学的な基礎知識
	14～15	テスト	前期テスト・事後
	16～17	概論	3～6章 復習と演習問題
	18～21	原料	復習と演習問題
	22	基礎香粧品	復習と演習問題
	23	メイクアップ	復習と演習問題
	24～27	頭皮・毛髪	復習と演習問題
	28	芳香・特殊	復習と演習問題
	29～30	まとめ	復習と演習問題
	31～33	国試対策	過去問

文化論 シラバス　　（専門課程）　　令和7年4月1日 作成 作成者 堀 可奈恵

1． 教科・科目名	文化論		
2． 教員名	堀 可奈恵		
3． 時間数・単位	1年次 30時間、 2年次 30時間　　（2年間 60時間 1単位）		
4． 科目の目標	①美容師としての使命の達成のために必要な美容感覚を身に付け、これを洗練し、芸術的な表現力と鑑賞力を養う。 ②美容の業務を全うするために、確かな技術を身に付けるとともに、豊かな感性に裏打ちされた優れた表現力を養うことが必要であることを自覚する。		
5． 使用教材	教科書	(社)日本理容美容教育センター 文化論	
	問題集	(社)日本理容美容教育センター ワークブック	
	その他	プリント、視聴覚教材	
6． 評価の方法	期末テストの評価	年2回 合計200点	
	平常学習の評価	プリント提出(授業毎) ・ 授業態度	
7． 評価の観点	観点	趣旨	
	知識・理解	美容文化の歴史及び沿革について理解している。我が国及び海外における美容ファッションの変遷、流行の心理・影響・意義と役割について理解している。	
		服飾の原理・意義、歴史のあらまし、衣服の種類、エチケットなどについて理解している。	
	国家試験対策	美容師国家試験の筆記試験対策として問題の解き方を理解している。	
	関心・意欲・態度	様々な具体例に関心を持ち、自ら考え、意欲的に学ぶ姿勢を身につけている。	
8． 評価・評定の基準	達成度	評価	評定
	特に高い程度に達成している者	90～100点	5
	高い程度に達成している者	80～89点	4
	おおむね達成している者	60～79点	3
	達成が不十分な者	40～59点	2
	達成が著しく不十分な者	0点～39点	1
9． 学習の方法	① オリジナル視聴覚教材、教科書、プリントを中心とした学習で基本的理解を深める。		
	② 教科内容に即した課題を与えて、ワークシート学習など、自主的な判断力の向上を図る。		
	③ 練習問題にて、美容師国家試験に向け、実践的な力をつける。		
10． 授業計画	1年次 前期		
	1 OR、総論		
	2 理容業・美容業の発生		
	3 江戸時代および近代の髪型概観		
	4 江戸時代の理容業・美容業		
	5 近代の理容業・美容業		
	6 現代の理容業・美容業		
	7 縄文・彌生・古墳時代		
	8 古代（飛鳥・奈良・平安時代）		
	9 中世（平安末・鎌倉・室町・戦国時代）		
	10 近世Ⅰ（戦国末・安土桃山時代）		
	11 近世Ⅱ（江戸時代）男性髪型		
	12 近世Ⅱ（江戸時代）男性髪型		
	13 前期まとめ		
	14 テスト		
	15 事後指導		

1年次 後期	
	1 近世Ⅱ（江戸時代）女性の髪型
	2 近世Ⅱ（江戸時代）女性の髪型
	3 近世Ⅱ（江戸時代）化粧・服装
	4 和装の礼装
	5 近代（明治）
	6 近代（大正・昭和20年まで）
	7 現代Ⅰ（1945年~1950年代）
	8 現代Ⅱ（1960年代）
	9 現代Ⅱ（1970年代）
	10 現代Ⅲ（1980年代）
	11 現代Ⅲ（1990年代）
	12 現代Ⅳ（2000年代以降）
	13 後期まとめ
	14 テスト
	15 事後指導
2年次 前期	
	1 OR、概観
	2 古代エジプト
	3 古代ギリシャ・ローマ
	4 古代ゲルマン
	5 中世ヨーロッパ（男性）
	6 中世ヨーロッパ（女性）
	7 近世Ⅰ（16世紀）
	8 近世Ⅱ（17世紀）
	9 近世Ⅲ（18世紀）
	10 近代Ⅰ（18世紀末～19世紀初め）
	11 近代Ⅱ（19世紀）（男性）
	12 近代Ⅱ（19世紀）（女性）
	13 前期まとめ
	14 テスト
	15 事後指導
2年次 後期	
	1 現代Ⅰ（1910年代～1920年代）
	2 現代Ⅱ（1930年代～1940年代前半）
	3 現代Ⅲ（1940年代後半～1950年代）
	4 現代Ⅳ(1960年代)
	5 現代Ⅴ（1970年代）
	6 現代Ⅵ（1980年代）
	7 現代Ⅶ（1990年代～2010年）
	8 洋装の礼装
	9 テスト
	10 事後指導
	11 演習
	12 演習
	13 演習
	14 演習
	15 演習

科目名	回	単元	指導内容
文化論		総論	「理容」「美容」の語義、社会における役割、文化史を知る意義について学ぶ。
		日本の理容業、美容業の歴史	理容業・美容業の発生から現代までの歴史を学ぶ。
		ファッション文化史日本編	縄文時代から現代(2010年)までの我が国の髪型、化粧、服装等、ファッション文化の変遷を学ぶ。
		ファッション文化史西洋編	古代エジプトから現代(2010年)までの海外の髪型、化粧、服装等、ファッション文化の変遷を学ぶ。
		礼装の種類	和装の礼装、洋装の礼装の種類としきたりを学ぶ。

エステティック　シラバス　（専門課程）　令和 7年 4月 30日作成　作成者 清生 陽子

1．教科・科目名	エステティック
2．教員名	清生 陽子
3．時間数・単位	1年次 30 時間2年次 0 時間 (2年間 30 時間 単位)
4．科目の目標	トータルで働けるように知識をを深めよう 皮膚の構造やカウセリングを勉強しよう
5．使用教材	教科書　美容技術理論2 実習道具　ウイッグ、クランプ、タオル、化粧品
6．評価の方法	テスト 授業態度 忘れ物

7．評価の観点

観点	趣旨
テスト	60点以上(赤点ではない)
授業態度	寝ていないこと。周りに話しかけて迷惑をかけないこと。
忘れ物	授業に臨む姿勢。授業ができないのはNG。

8．評価・評定の基準

達成度	評価	評定
特に高い程度に達成している者	90～100点	5
高い程度に達成している者	80～89点	4
おおむね達成している者	60～79点	3
達成が不十分な者	31～59点	2
達成が著しく不十分な者	0～30点	1

9．学習の方法

教科書を使って知識の習得
ウイッグとプリントを使った実技
相モデルでの実技

10．授業計画

科目名	回	学習内容
エステ	1	オリエンテーション
	2	エステティックとは
	3	エステティック概論
	4	皮膚の構造
	5	皮膚の構造
	6	カウンセリングについて
	7	フェイシャルケア(基礎ケア)
	8	フェイシェルケア(夏ケアUV)自分の
	9	美容におけるマッサージ理論
	10	ウイッグを使って実技(クレンジング～マッサージ)→相モデル
	11・12	ウイッグを使って実技→相モデル
	13～15	テスト
	16	衛生と消毒
	17・18	フェイシャルケア(冬ケア)
	19～21	実技
	22	肌トラブル(ニキビ、シ、シワ、肌あれ)
	23・24	栄養や食事について
	25～27	実技
	28～30	テスト

シラバス　（　専門課程　）　令和 6年　2月　28 日作成　作成者 平松 眞治

1．教科・科目名	日本メイクアップ協会 認定3級、2級メイク検定対策
2．教員名	平松眞治
3．時間数・単位	1年次　40　時間　(2年間　時間　単位)
4．科目の目標	3級、2級テキストを使用し、メイクの基本からトータルメイクまでの実技の習得、 及び、筆記試験対策としての座学の勉強
5．使用教材	テキスト　JMA3級、2級公式テキスト
6．評価の方法	実技試験　3級メイク実技試験の合否、2級メイク実技試験の合否及び校内メイク実技試験の減点評価 平常学習評価　授業態度

7．評価の観点	観点	趣旨

8．評価・評定の基準	達成度	評価	評定
	特に高い程度に達成している者	90～100点	5
	高い程度に達成している者	80～89点	4
	おおむね達成している者	60～79点	3
	達成が不十分な者	31～59点	2
	達成が著しく不十分な者	0～30点	1

9．学習の方法	

10．指導内容

科目名	単元	指導内容
メイク	オリエンテーションetc	JMA3級、2級説明、道具出し、実技デモスト、セッティングの仕方をレッスン
	スキンケア1	手技、手順に沿って、ポイントクレンジング、クレンジングをウィッグでレッスン
	スキンケア2	手技、手順に沿って、ポイントクレンジングからファンデーションまでウィッグでレッスン
	スキンケア3	手技、手順に沿って、ポイントクレンジングから下地クリームまで相モデルでレッスン
	ベースメイク1	手技、手順に沿って、ポイントクレンジングからファンデーションまで相モデルでレッスン
	3級トータルメイク1	前回までのレッスンを踏まえて、時間内にできるように相モデルでレッスン
	3級試験リハーサル及び3級実技試験	3級実技試験の内容に沿って、セッティング、服装、実技メイクに至るまでリハーサルをする
	2級スキンケアまで1	手技、手順に沿って、ポイントクレンジングから乳液まで相モデルでレッスン
	2級ベースメイク1	手技、手順に沿って、ポイントクレンジングからパウダーまで相モデルでレッスン
	2級ベースメイク2	ポイントクレンジングからベースメイク及びアイブロウまで
	2級トータルメイク1	ポイントクレンジングからベースメイク及びアイメイクまで
	2級トータルメイク2	ポイントクレンジングからベースメイク及びリップまで
	2級トータルメイクレッスン	前回までのレッスンを踏まえて、時間内にできるように相モデルでレッスン
	2級実技試験レッスン	2級実技試験の手順に沿って、時間内にできるように相モデルでレッスン
	2級試験リハーサル及び2級実技試験	2級実技試験の内容に沿って、リハーサル及び2級実技試験

接遇マナー(ビューティビジネス)

(専門課程 1年)　　令和7年作成　　作成者　中原諭美

1．　教科・科目名	接遇マナー（ビューテイ・ビジネス）	
2．　教員名	中原 諭美	
3．　時間数・単位	1年次　30時間　　（1年間　30時間　1単位）	
4．　科目の目標	美容業界で高い評価を得られる人材になるべく、ビューティーコーディネーターという存在の仕事と社会人 必要なビジネスマナーを身につける。 ビューティービジネス実務検定試験３級の取得を目指す。	
5．　使用教材	教科書	ビューティービジネス実務検定試験公式テキスト
	その他	PP、プリント、過去問
6．　評価の方法	テストの評価	・ミニテストへの取り組み方
	平常学習の評価	・提出物　・　授業態度（取組姿勢）　・　検定試験の結果（合否）
7．　**評価の観点**	観点	趣　旨
	知識・理解	社会人としてのビジネスマナーの基礎的知識、美容業界についての理解
		ヘア、メイク、ファッションを通じた時代のトレンドの移り変わりの理解、新しいトレン
	検定試験	実践でも活用できるビジネスマナーとコミュニケーション知識の取得、美容業界について
	授業態度	積極的に興味関心を持つことができるか。実践的な場での知識の活用ができるか。
	総合評価	検定試験合否で基礎評価をし、授業態度で総合的に評価を行う。(下記8表参照)

8．　評価・評定基準	達成度	評価	評定
	特に高い程度に達成している者	90～100点	5
	高い程度に達成している者	80～89点	4
	おおむね達成している者	60～79点	3
	達成が不十分な者	40～59点	2
	達成が著しく不十分な者	0点～39点	1

9．　学習の方法	①　テキストを中心とした学習で基本的知識の理解
	②　就職ガイダンス、総合実践授業での知識の応用
	③　検定試験合格に向け、練習問題や過去問で各章を理解する

10．　指導内容

単元	指導内容
第Ⅰ部	ビジネスコミュニケーションや、サロン内でのコミュニケーション、ホスピタリティについて理解する
サロンにおけるビジネスキャリア	電話の応対、名刺交換の実演、あいさつなどキャリアワーク・就職活動と連動した指導
第Ⅱ部	生産性を高めるフロアマネージメントについて理解する。インターンシップとの連動
ビューティ・コーディネーターとは	「美意識」の必要性を理解する。時代とトレンドを知ることで、ファッションを理解する。
第Ⅲ部	美容基礎知識の再認識による、アドバイス力と提案力を理解する
検定対策	美容メニューの基本知識　カラー施術の名称を理解する。

ネイル　シラバス　（専門課程 2年 ）　令和 7年 4月 1日作成　作成者 伊藤侑子

1． 教科・科目名	ネイル			
2． 教員名	伊藤侑子			
3． 時間数・単位	1年次　時間　2年次 20　時間(2年間　60　時間　2 単位)			
4． 科目の目標	ジェルネイルの道具の扱い方、手順を学び、技術・知識を身に着ける ジェルネイル技能検定初級対応基礎力の習得、アート技術の習得			
5． 使用教材	教科書　JNAテクニカルシステム ジェルネイル			
	問題集　ネイリスト技能検定試験 公式問題集			
6． 評価の方法	期末テスト評価　年1回 合計100点			
	平常学習評価　授業態度			
7． 評価の観点	観点	趣旨		
	知識・理解	ジェルネイルの使用方法、基礎知識をつける		
	技能検定対策	ジェルネイル技能検定初級程度の技術を身につけている		
	関心・意欲・態度			
8． 評価・評定の基準	達成度	評価	評定	
	特に高い程度に達成している者	90～100点	5	
	高い程度に達成している者	80～89点	4	
	おおむね達成している者	60～79点	3	
	達成が不十分な者	31～59点	2	
	達成が著しく不十分な者	0～30点	1	
9． 学習の方法	テキスト用いた講義形式			
	デモンストレーション後、プラクティスハンドやチップへの施術による実技練習			
10． 授業計画	単元	指導内容		
		1.爪や衛生管理に関する知識や、ジェル用材の特徴を知る		
		2.プレパレーションの重要性を知り、正しいサンディングの手順を身につける。		
		3.はみ出さず、適切な量のベースジェルを塗る練習。ハンド使用		
		4.カラージェルをムラ、はみ出し、溜まりなく塗る練習。		
		5.トップジェルを凸凹なく塗布する練習。		
		6.7.ピーコックアート		
		8.9.10.ジェル検定初級第二課題の手順に沿って、ハンドに通しで施術		
		ジェル検定		